慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	秋田縣立志口暴動事件判決書 (明治十六、七年) : 明治法制史料雜纂 (八)
Sub Title	Judgement on the Akita riot case of 1881
Author	手塚, 豊(Tezuka, Yutaka)
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	1961
Jtitle	法學研究 : 法律・ 政治・ 社会 (Journal of law, politics, and sociology). Vol.34, No.10 (1961. 10) ,p.84- 97
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	資料
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19611015-0084

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

資料

秋田縣立志社暴動事件判決書（明治十六、七年）

明治法制史料雜纂（八）

手塚豐

明治十四年六月、秋田縣における自由民權運動の政社であつた「秋田立志社」の社員が、政府顚覆の陰謀を計畫したいわゆる「秋田事件」は、田中惣五郎氏が「自由黨暴動事件は、明治十五年の福島事件を出發點とすることになつてゐるが、事實は十四年六月の秋田事件を最初のものとする」[1]と指摘されているように、自由民權運動國事犯事件の嚆矢としてきわめて注目すべき事件である。それにもかかわらず、資料の貧困のためか、戰前においては、同事件に關する研究はほとんど皆無であり、例えば大正六年發行の「秋田縣史」においても「阿氣村ノ兇徒暴發」と題してわずかに十行餘の記載があるにすぎない狀況であつた。[2]

ところが、戰後、秋田地方の鄕土史家の研究によつて、同事件の全貌がようやく明らかにされる時がきたのである。羽後新報に昭和二十九年一月十日から三十一年七月二十六日まで九十六回にわたつて連載された佐々木金一郎氏の「秋田立志會暴動記」[3]がそれである。これは、同地方に殘存する秋田立志會（十四年に立志社と改稱）關係資料を斷簡零墨にいたるまで涉獵し、暴動事件の經過を探求した珠玉の研究であつて、その多年にわたる不屈の努力に對しては深甚なる敬意を表さずにおられない。その後發行された「秋田縣政史」も、この佐々木氏の研究をもとにして、秋田事件をかなり詳しく取扱つている。[4]

しかし、これらの研究を以てしても、なお事件の內容がすべて解明されたとはいえない。例えば數十名を數えたといわれる事件關係者全員の氏名も明らかではなく、また、處刑の狀況すなわち判決書のごときも、わずかに三名分をのぞいては、紹介されていない。佐々木氏が引用されている判決書は、首謀者である柴田淺五郎、舘友

藏、柏木第六のそれであり、[5] 同じく首謀者の一人である川越庫吉のそれについては「今尚未發見である事は遺憾であるが、更に手を盡して探り度いと思う」[6]と述べられている。「秋田縣政史」も、佐々木氏の論考から、柴田の判決書だけを引用しているにすぎない。[7]

最近、私は計らずも、同事件で國事犯として處刑された全員十九名の判決書をみる機會をえたので、ここにその全文を覆刻、紹介する次第である。なお、同事件は事件の發生と、判決の時期が、明治十五年の刑法、治罪法施行の前後にまたがり、裁判管轄、法律の適用などの點で、法制史的にみてきわめて興味ある問題を多くふくんでいる。しかし、そうした問題點の詳しい究明は、近く本誌に發表を豫定している「秋田立志社暴動事件の裁判に關する一考察」（假題）と題する拙稿にゆずり、本稿は判決書の紹介のみにとどめたい。

（1） 田中惣五郎「日本の自由民權」（昭和二十二年）・一七六頁。
（2） 「秋田縣史」第四册・四一二頁―四一三頁。
（3） この論考は、昭和三十三年七月に至り單行本にまとめられ、佐々木金一郎「秋田立志會暴動記」として出版された。本稿の引用はこれによる。
（4） 「秋田縣政史」上卷（昭和三十年）・二八四頁以下。
（5） 佐々木氏の説明によると、柴田判決書は、横手町鄉土史家細谷則理氏の舊藏書で、擔當判事名を缺く寫本であり、また、舘友藏と柏木第六のそれは、いずれも自由新聞明治十七年三月十九日第五〇五號所載の判決文からの引用である（佐々木・前掲書・四五頁―四七頁、一〇三頁―一〇七頁）。
（6） 佐々木・前掲書・一〇三頁。
（7） 前掲秋田縣政史・二八八頁―二八九頁。

前註（1） 明治十六年三月十日判決の分（石渡運助他十三名）は、秋田始審裁判所長芹澤政溫より司法卿大木喬任への報告書（十六年三月日缺）に添附された文書で、秋田始審裁判所十三行罫紙十七枚の筆寫本である。
（2） 明治十六年七月十一日判決の分（橋本熊五郎）は、前同樣の報告書（十六年七月十三日附）に添附された文書で、秋田始審裁判所十三行罫紙二枚の筆寫本である。
（3） 明治十七年三月七日判決の分（柴田淺五郎他三名）は、前同樣の報告書（十七年三月八日附）に添附された文書で、秋田始審裁判所十三行罫紙十二枚の筆寫本である。
（4） 以上の文書は、いずれも法務圖書舘所藏である。
（5） 明治十六年七月十一日および十七年三月七日の判決書はいずれも正式の判決謄本の形式を採った文書で、秋田輕罪裁判所および謄寫擔當の弓削書記の印鑑が捺されているが、十六年三月十日判決のものは、正式の判決謄本ではなく、したがって前掲裁判所印の捺印もないし、また謄寫擔當書記の署名捺印もない。
（6） 荻野判事補の名が「錬次郎」となっているものがあ

るが、これは誤記であつて「錬二郎」が正しい（明治十五年七月「官員錄」秋田始審裁判所の項參照）。

（7）柴田淺五郎、舘友藏、柏木第六の判決書は、前にも述べたごとくすでに佐々木氏によつて紹介されているが、それを確認する意味で本稿にも收錄した。

裁判言渡

秋田縣羽後國雄勝郡柏木村平民　石渡運助

同縣同國同郡同村平民　佐々木熊藏

同縣同國同郡同村平民　柴田善吉

同縣同國同郡岩崎町平民　相澤伊助

其方共儀明治十四年中柴田淺五郎ノ教唆ニ乘シ政府ヲ顚覆セントスルノ企ニ附加シ其豫備ヲ爲シタルハ其方共カ署名シタル國會開設ニ付誓約書ト題記セル文書等ニテ明瞭ナリ又其方共ハ他立志社員ノ者ト共ニ明治十四年六月八日夜秋田縣下平鹿郡阿氣村平民須藤六郎左ヱ門宅ヘ各兇器ヲ携帶シテ侵入シ財物ヲ强取セシモノニシテ其證憑ハ警察官ノ調書及被害者ノ陳述等ニテ充分ナリトス右犯罪ハ新法實施以前ニ在ルヲ以テ玆ニ新舊ノ法律ヲ比照スルニ第一犯罪ハ新法ニ在テハ刑法第百廿一條第四項及第百廿五條ニ依リ本刑壹年六月以上三年九月以下ノ輕禁錮所犯原諒ス可キ情狀アルヲ以テ同法第八十九條第九十條ニ依リ二等ヲ輕減シ九月以上壹年十一月十五日以下ノ輕禁錮ニ該リ舊法ニ在テハ禁獄貳年ニ該ル又第二犯罪ハ新法ニ在テハ刑法第三百七十八條及第三百七十九條第一第貳項ニ照シ二等ヲ加ヘ本刑有期徒刑而テ所犯原諒ス可キ情狀アルヲ以テ刑法第八十九條第九十條ニ依リ二等ヲ輕減シ輕懲役ニ該リ舊法ニ在テハ明治十年第廿五號布告强盜律改正條款ニ依リ懲役終身情法ヲ酌量シ五等ヲ減シ懲役貳年半ニ該ル因テ刑法第三條明治十四年第八十一號布告及刑法第百條ニ依リ各懲役貳年半ニ處スル者也

秋田輕罪裁判所

明治十六年三月十日　判事　芹澤政溫

判事補　荻野錬二郎

判事補　長谷川勝太郎

書記　利部定吉

檢事山上雲平立會宣告ス

裁判言渡

秋田縣羽後國雄勝郡大澤村平民

遠藤正之助

其方儀明治十四年中柴田淺五郎ノ教唆ニ乘シ政府ヲ顚覆セントスルノ企ニ附加シ其用ニ供ス可キ軍旗等ヲ製調シ以テ其豫備ヲナシタル其方ノ自供及ヒ共犯者藤井善松カ宮城縣警察官ニ對シナシタル陳述又ハ現存スル軍旗等ニテ其證憑充分ナリトス

右犯罪ハ新法實施以前ニ在ルヲ以テ玆ニ新舊ノ法律ヲ比照スルニ新法ニ在テハ刑法第百廿一條第四項及其第百廿五條ニ依リ本刑壹年六月以上三年九月以下ノ輕禁錮所犯原諒ス可キ情狀アルヲ以テ同法第八十九條第九十條ニ依リ二等ヲ輕減シ輕禁錮一年十月ニ該リ舊法ハ禁獄貳年ニ該ル因テ刑法第三條及明治十四年第八十一號布告ニ依リ輕禁錮一年十月ニ處スル者也

秋田輕罪裁判所

明治十六年三月十日

判事　芹澤政溫

判事補　荻野錬二郎

判事補　長谷川勝太郎

書記　利部定吉

檢事山上雲平立會宣告ス

裁判言渡

秋田縣羽後國雄勝郡大澤村士族

上法茂雄

其方儀明治十四年中柴田淺五郎ノ教唆ニ乘シ政府ヲ顚覆セントスルノ企ニ附加シ其用ニ供ス可キ軍旗及ヒ軍陣守札等ヲ調製シテ其豫備ヲナシタル所爲ハ現存スル軍旗守札及其方ノ自供等ニテ明白ナリトス

右犯罪ハ新法實施以前ニ在ルヲ以テ玆ニ新舊ノ法律ヲ比照スルニ新法ハ刑法第百廿一條第四項及其第百廿五條ニ依リ本刑壹年六月以上三年九月以下ノ輕禁錮所犯原諒ス可キ情狀アルヲ以テ同法第八十九條第九十條ニ依リ二等ヲ輕減シ輕禁錮一年五月ニ該リ舊法ハ禁獄貳年ニ該ル因テ刑法第三條及明治十四年第八十一號布告ニ依リ輕禁錮壹年五月ニ處スル者也

秋田輕罪裁判所

明治十六年三月十日

判事　芹澤政溫

判事補　荻野錬二郎

判事補　長谷川勝太郎

書記　利部定吉

檢事山上運平立會宣告ス

秋田縣立志社暴動事件判決書（明治十六、七年）

裁判言渡

秋田縣羽後國平鹿郡鼎村平民

黑澤易五郎

其方儀明治十四年中柴田淺五郎ノ教唆ニ乘シ政府ヲ顚覆セントスノ企ニ附加シ其豫備ヲナシタルハ警察官ノ調書及柴田淺五郎ヨリ送致セシ書狀等ニテ明瞭ナリトス

右犯罪ハ新法實施以前ニ在ヲ以テ爰ニ新舊ノ法律ヲ比照スルニ新法ニ在テハ刑法第百廿一條第四項及其第百廿五條ニ依リ本刑壹年六月以上三年九月以下ノ輕禁錮所犯原諒ス可情狀アルヲ以テ同法第八十九條第九十條ニ依リ二等ヲ輕減シ輕禁錮壹年五月ニ該リ舊法ハ禁獄貳年ニ該ル因テ刑法第三條及明治十四年第八十一號布告ニ依リ輕禁錮壹年五月ニ處スル者也

但差押置タル刀壹本ハ沒收スル者也

秋田輕罪裁判所

明治十六年三月十日

判事　芹澤政溫

判事補　荻野錬二郎

判事補　長谷川勝太郎

書記　利部定吉

檢事山上雲平立會宣告ス

裁判言渡

秋田縣羽後國平鹿郡鼎村平民

高橋多七

其方儀明治十四年中柴田淺五郎ノ教唆ニ乘シ政府ヲ顚覆セントスルノ企ニ附加シ其豫備ヲナシタル事實ハ警察官ノ調書及柴田淺五郎ヨリ送リタル書狀等ニテ明白ナリトス

右犯罪ハ新法實施以前ニ在ルヲ以テ爰ニ新舊ノ法律ヲ比照スルニ新法ニ在テハ刑法第百廿一條第四項及其第百廿五條ニ依リ本刑壹年六月以上三年九月以下ノ輕禁錮所犯原諒ス可キ情狀アルヲ以テ同法第八十九條第九十條ニ照シ貳等ヲ輕減シ輕禁錮壹年三月ニ該ル舊法ニ在テハ禁獄貳年ニ該ル因テ刑法第三條及明治十四年第八十一號布告ニ依リ輕禁錮壹年三ヶ月ニ處スル者也

秋田輕罪裁判所

明治十六年三月十日

判事　芹澤政溫

判事補　荻野錬二郎

判事補　長谷川勝太郎

書記　利部定吉

檢事山上雲平立會宣告ス

裁判言渡

秋田縣羽後國平鹿郡十文字新田村平民

長瀨興市

其方儀明治十四年中柴田淺五郎ノ教唆ニ乘シ政府ヲ顚覆セントスルノ企ニ附加シ其豫備ヲナシタル事實ハ警察官ノ調書柏木第六ノ口供又ハ柴田淺五郎ヨリ依託ノ書狀等ニテ明白ナリトス

右犯罪ハ新法實施以前ニアルヲ以テ茲ニ新舊ノ法律ヲ比照スルニ新法ニ在テハ刑法第百廿一條第四項及ヒ其第百廿五條ニ依リ本刑一年六月以上三年九月以下ノ輕禁錮所犯原諒ス可キ情狀アルヲ以テ同法第八十九條第九十條ニ依リ二等ヲ輕減シ輕禁錮一年三月ニ該リ舊法ハ禁獄二年ニ該ル因テ刑法第三條及明治十四年第八十一(まま)條布告ニ依リ輕禁錮一年三月ニ處スル者也

但差押タル脇差一本ハ沒收スル者也

秋田輕罪裁判所

明治十六年三月十日

判事　芹澤政溫

判事補　荻野錬二郎

判事補　長谷川勝太郎

書記　利部定吉

檢事山上雲平立會宣告ス

裁判言渡

秋田縣羽後國平鹿郡谷地新田村

佐々木庄治

其方儀明治十四年中柴田淺五郎ノ教唆ニ乘シ政府ヲ顚覆セントスルノ企ニ附加シ其豫備ヲナシタル事實ハ其方ノ自供警察官ノ調書及ヒ自ラ血判シタル國會開設ニ付誓約書ト題記スル書面ニテ明白ナリトス

右犯罪ハ新法實施以前ニ在ルヲ以テ茲ニ新舊ノ法律ヲ比照スルニ新法ニ在テハ刑法第百二十一條第四項及ヒ其第百二十五條ニ依リ本刑一年六月以上三年九月以下ノ輕禁錮所犯原諒ス可キ情狀アルヲ以テ同法第八十九條ニ依リ二等ヲ輕減シ輕禁錮一年三月ニ該ル舊法ハ禁獄二年ニ該ル因テ刑法第三條及明治十四年第八十一號布告ニ依リ輕禁錮一年三月ニ處スル者也

秋田輕罪裁判所

明治十六年三月十日

判事　芹澤政溫

判事補　荻野錬二郎

判事補　長谷川勝太郎

書記　利部定吉

檢事山上雲平立會宣告ス

秋田縣立志社暴動事件判決書（明治十六、七年）

書記　利部　定吉

裁判言渡

秋田縣羽後國平鹿郡中吉田村平民
西田忠五郎

其方儀明治十四年五月中秋田縣平鹿郡醍醐村藤原多左衞門方ニ押入リ金錢財物ヲ强取セントシ同人ヲ殺害シ又同年六月中同郡阿氣村須藤六郎左衞門方ニ押入金錢財物ヲ強取シタル事件ニ共謀シタリト認ムヘキ證憑ハコレナキニ付右事件ニ付テハ無罪ナリト雖トモ明治十四年中柴田淺五郎カ政府ヲ顚覆セントスル企ニ同意シ其準備ヲ助成シタル所爲ハ警察官ノ調書及其犯罪ニ供用ス可キ物件又ハ連判帳ヲ自家ニ藏置シタル等ノ證憑ニテ充分ナリトス

右犯罪ハ新法實施以前ニ在ルヲ以テ玆ニ新舊ノ法ヲ比照スルニ新法ニ在テハ刑法第百廿一條第二項及其第廿五條ニ依リ本刑重禁獄所犯原諒ス可キ情狀アルヲ以テ同法第八十九條第九十條ニ依リ二等ヲ輕減シ輕禁錮二年ニ該リ舊法ハ禁獄三年ニ該ル因テ刑法第三條及明治十四年第八十一號布告ニ依リ輕禁錮二年ニ處スル者也　但差押タル脇差一本ハ沒收スル者也

秋田輕罪裁判所

明治十六年三月十日　判事　芹澤政溫
判事補　荻野錬二郎
判事補　長谷川勝太郎

檢事山上雲平立會宣告ス

裁判言渡

秋田縣羽後國平鹿郡横手町平民
藤井善松

其方儀明治十四年中柴田淺五郎カ政府ヲ顚覆セントスル企ニ同意賛成シ始終其樞要ナル謀議ニ與リ以テ內亂ノ豫備ヲナシタルモノナル（其方カ宮城縣警察官ニ對シナシタル自供及共犯者遠藤正之助佐々木庄治等ノ陳述ヲ以テ明瞭ナリトス右犯罪ハ新法實施以前ニ在（まま）ヲ以テ玆ニ新舊ノ法律ヲ比照スルニ新法ハ刑法第百廿一條第二項及第百廿五條ニ依リ本刑重禁獄所犯原諒ス可キ情狀アルヲ以テ同法第八十九條第九十條ニ因リ二等ヲ減シ輕禁錮三年ニ該リ舊法ニ在テハ禁獄五年ニ該ル因テ刑法第三條及明治十四年第八十一號布告ニ依リ輕禁錮三年ニ處スル者也

秋田輕罪裁判所

明治十六年三月十日　判事　芹澤政溫
判事補　荻野錬次（まま）郎
判事補　長谷川勝太郎

檢事山上雲平立會宣告ス

（手塚註）本判決文には書記の名を缺く。おそらく轉寫の折の誤りであろう。

裁判言渡

秋田縣羽後國由利郡舘合村平民

小松捨次郎

其方儀明治十四年中柴田淺五郎ノ教唆ニ乘シ政府ヲ顚覆セントスルノ企ニ附加シ其豫備ヲナシタル事實ハ警察官ノ調書等ニテ明白ナリトス右犯罪ハ新法實施以前ニ在ルヲ以テ茲ニ新舊ノ法律ヲ比照スルニ新法ニ在テハ刑法第百廿一條第四項及其第百廿五條ニ依リ本刑一年六月以上三年九月以下ノ輕禁錮所犯原諒ス可キ情狀アルヲ以テ同法第八十九條第九十條ニ依リ二等ヲ輕減シ輕禁錮一年ニ該リ舊法ハ禁獄二年ニ該ル因テ刑法第三條及明治十四年第八十一號布告ニ依リ輕禁錮一年ニ處スル者也

秋田輕罪裁判所

明治十六年三月十日

判事　芹澤政溫

判事補　荻野錬次（ママ）郎

判事補　長谷川勝太郎

書記　利部定吉

檢事山上雲平立會宣告ス

秋田縣立志社暴動事件判決書（明治十六、七年）

裁判言渡

秋田縣羽後國雄勝郡大澤村平民

阿倍久吉

其方儀明治十四年中柴田淺五郎ノ教唆ニ乘シ政府ヲ顚覆セントスルノ企ニ附加シ其用ニ供ス可キ軍旗ノ調製等ヲナシ其豫備ヲナシタル事實ハ現存スル軍旗及警察官ノ調書等ニテ明白ナリトス

右犯罪ハ新法實施以前ニ在ルヲ以テ爰ニ新舊ノ法律ヲ比照スルニ新法ニ在テハ刑法第百廿一條第四項及其第百廿五條ニ依リ本刑一年六月以上三年九月以下ノ輕禁錮所犯原諒ス可キ情狀アルヲ以テ同法第八十九條第九十條ニ照シ二等ヲ輕減シ輕禁錮一年二月ニ該リ舊法ハ禁獄二年ニ該リ因テ刑法第三條及明治十四年第八十號布告ニ依リ輕禁錮一年二月ニ處スル者也

秋田輕罪裁判所

明治十六年三月十日

判事　芹澤政溫

判事補　荻野錬二郎

判事補　長谷川勝太郎

書記　利部定吉

檢事山上雲平立會宣告ス

裁判言渡

秋田縣羽後國平鹿郡上吉田村平民農

橋本熊五郎

三十七年

其方儀明治十四年中柴田淺五郎ノ教唆ニ乘シ政府ヲ顚覆セントスルノ企ニ附加シ其豫備ヲ爲シタル事實ハ共犯者舘友藏ノ陳述其他警察官ノ調書等ニテ明確ナリ又其方ハ明治十四年六月八日夜他立志社員ノ者ト共ニ秋田縣下平鹿郡阿氣村平民須藤六郎左衞門宅ヘ各兇器ヲ携帶シテ侵入シ其家人ヲ脅迫シテ財物ヲ强取シタルモノニシテ其證憑ハ警察官ノ調書被害者ノ陳述共犯舘友藏柏倉佐吉ノ陳述等ヲ以テ充分ナリトス

右犯罪ハ新法實施以前ニ在ルヲ以テ玆ニ新舊ノ法律ヲ比照スルニ第一犯罪ハ新法ニ在テハ刑法第百廿一條第四項及第百廿五條ニ依リ本刑一年六月以上三年九月已下ノ輕禁錮所犯原諒ス可キ情狀アルヲ以テ同法第八十九條第九十條ニ依リ二等ヲ輕減シ九月以上一年十一月十五日以下ノ輕禁錮ニ該リ舊法ニ在テハ禁獄二年ニ該ル又第二犯罪ハ新法ニ在テハ刑法第三百七十八條及第三百七十九條第一第二項ニ照シ二等ヲ加ヘ本刑有期徒刑所犯情狀原諒ス可キアルヲ以テ刑法第八十九條第九十條ニ依リ本刑ニ二等ヲ輕減シ輕懲役ニ該リ舊法ニ在テハ明治十年第廿五號公布强盜律改正條款ニ依リ懲役終身情法ヲ酌量シ五等ヲ減シ懲役二年半ニ該ル因テ刑法第三條同法第百條及明治十四年第八十一號布告ニ依リ懲役二年半ニ處スル者也

秋田輕罪裁判所ニ於テ檢事田中玄文立會宣告ス

明治十六年七月十一日　判事　芹澤政溫

判事補　荻野錬二郎

判事補　長谷川勝太郎

書記　利部定吉

右正本ニ依リ謄寫スル處相違ナキモノ也

秋田輕罪裁判所

明治十六年七月十三日　書記　利部定吉

裁判言渡書

秋田縣羽後國平鹿郡中吉田村平民農

柴田淺五郎

當三十一年七ケ月

其方儀明治十三年八月以來秋田縣下ニ於テ立志社ナルモノヲ設立シ自ラ其社長トナリ多數ノ人員ヲ集會シ明治十四年ニ至リ首魁トナリテ政府ヲ顚覆センコトヲ企テ其豫備ヲ爲シタルモノナリト認定ス其證憑ハ第一準備シタル兵器第二調製シタル軍旗印章第三國會開設ニ付誓約書ト題記スル簿册ニ血判ヲナサシメタルコト第四上遠野秀宜

ト往復シタル手簡第五上遠野秀宜カ宮城警察署ニ於テナシタル陳述書第六自ラ監倉ニ於テ認記シタル西田忠五郎館藤右エ門宛ノ密書第七共犯者カ秋田縣警察官ニ對シ爲シタル陳述書等ヲ以テ充分ナリトス

又其方ハ立志社資本金ノ竭乏ニ苦シミ明治十四年五月中川越庫吉ニ指示シ館友藏柏木第六高橋久米吉等ト共ニ持兇器强盜ヲ犯サシメ其現ニ行ヒタル者意外ノ障礙ニ因リ竟ニ其目的ヲ遂ケ得サルモノナリトス其證憑ハ柏木第六川越庫吉館友藏カ秋田縣横手警察署ニ於テナシタル自供ノ一部及柏木第六カ本衞ノ供述ニ依リ充分ナリトス但其教唆ノ事實ヲ推測スルニ右ハ多左衞門殺害ノ點ニ到ラスシテ只其强盜ノ點ニ止マリ其殺害ノ一事ハ本犯ノ意外ニ出テタルモノナリト認定ス

以上ノ所爲ハ刑法實施以前ニ在ルヲ以テ之ヲ刑法第三條ニ照スニ舊法ニ在テハ第一國事ニ關スル罪ハ禁獄十年ニ該リ第二ノ罪ハ賊盜律盜賊窩主條第一項若シ同ク行ハス又贓ヲ分タサル者ハ徒二年トアルニ該ル右二罪俱發以重論條ニ依リ一ノ重キ禁獄十年ニ處ス可キモノナリトス又新法ニ在テハ第一國事ニ關スルノ罪ハ刑法第百二十五條第一項ニ依リ同法第百二十一條第一項ノ刑ニ一等ヲ減輕シ本刑無期流刑ニ該ル而シテ所犯原諒ス可キ情狀アルヲ以テ同法第八十九條第九十條ニ依リ本刑ニ二等ヲ減シ重禁獄ニ該リ第二ノ罪ハ刑法第百五條第三百七十八條ニ依リ仍ホ同法第三百七十九條ニ從ヒ二等ヲ加ヘ而シテ同法第百十二條第百十三條ニ照シ本刑ニ一等ヲ減シ重懲役ニ該ル右二罪俱發スルヲ以テ同法第百條ニ照シ一ノ重キ重懲役ノ刑ニ處ス可キモノナリトス

因リテ明治十四年第八十一號布告ニ依リ新舊ノ法ヲ比照シ舊法ノ輕ニ從ヒ禁獄十年ニ處スルモノ也

但明治十四年六月九日夜須藤六郎左衞門方持兇器强盜事件ハ其方ニ於テ教唆セシト認ム可キ證憑充分ナラサルニ依リ無罪

又差押ヘタル刀劍十三本短刀一本大身鎗一本仕込杖四本鐵鎗二本銃砲三挺軍旗三十三旒印判十四顆血判アル誓約書及人名ヲ列記シタル書類等悉ク之ヲ沒收ス

明治十七年三月七日秋田輕罪裁判所ニ於テ檢事補上倉繁藏立會ノ上宣告ス

判事　芹澤政溫
判事補　荻野錬二郎
判事補　長谷川勝太郎
書記　加藤清次郎

右正本ニ依リ謄寫スルモノ也

明治十七年三月十日

書記　弓削熊吉

裁判言渡書

秋田縣羽後國平鹿郡横手新町下丁士族

館　友　藏

當四十一年

其方儀柴田淺五郎カ教唆ニ從ヒ明治十四年五月十八日夜川越庫吉柏木第六等ト共ニ各兇器ヲ携帶シ秋田縣羽後國平鹿郡醍醐村藤原多左衞門方ヘ押入リ財物ヲ强取セントスル際多左衞門ニ防禦セラレントスル勢アルヨリ同人ヲ刄傷シ以テ之ヲ死ニ致タシ財物ヲ得スシテ立去リ又明治十四年六月九日橋本熊五郎外數名ノ者ト共ニ兇器ヲ携帶シ秋田縣羽後國平鹿郡阿氣村須藤六郎左エ門方ヘ押入リ財物ヲ强取シタルモノニシテ其證憑ハ秋田縣横手警察署ニ於テ爲シタル自供及秋田縣巡査鷹觜德治カ作リタル檢證調書共犯川越庫吉柏木第六カ横手警察署ニ於テ爲シタル陳述又ハ秋田縣巡査跡部興一カ作リタル檢證調書被害者須藤六郎左エ門ノ陳述ヲ以テ明確ナリトス

又其方ハ明治十四年中柴田淺五郎カ政府ヲ顚覆セントスルノ企ニ同意シ恒ニ淺五郎ノ股肱トナリテ樞要ノ謀議ニ與リ其豫備ヲ爲シタルモノナリ其證憑ハ遠藤正之助ヲシテ軍旗ヲ調製セシメタル事跡及ヒ本犯友藏カ供狀等ニ徵シ充分ナリトス

以上ノ處爲ハ刑法實施以前ニ在ルヲ以テ刑法第三條ニ照スニ舊法ニ在テハ第一ノ所爲ハ明治十年第二十五號公布强盜律改正條款ニ照シ斬罪ニ處ス可キモノニ該リ處犯原諒ス可キ情狀アルヲ以テ明治七年第百三十四號公布ニ依リ本罪ニ一等ヲ量減シ懲役終身ニ處ス可キモノニ該リ第二ノ處爲ハ明治十年第二十五號公布强盜律改正條款ニ照シ懲役終身ニ處ス可キモノニ該リ處犯原諒ス可キ情狀アルヲ以テ明治七年第百三十四號公布ニ依リ本罪ニ五等ヲ量減シ懲役二年半ニ處ス可キモノニ該ル又第三國事ニ關スル罪ハ禁獄三年ニ該ルヲ以テ新律綱領二罪俱發以重論條ニ依リ一ノ重キ懲役終身ニ處ス可キモノナリトス又新法ニ於テハ第一ノ處爲ハ刑法第三百八十條ニ依リ死刑ニ處ス可キモノニ該ル然レトモ處犯原諒ス可キ情狀アルヲ以テ同法第八十九條第九十條ニ從ヒ本刑ニ一等ヲ減シ無期徒刑ニ處ス可キモノニ該リ第二ノ處爲ハ刑法第三百七十八條及ヒ同法第三百七十九條第一第二ノ情狀アルヲ以テ一個毎ニ一等ヲ加ヘ有期徒刑ニ該リ而シテ處犯原諒ス可キ情狀アルヲ以テ同法第八十九條第九十條ニ依リ本刑ニ二等ヲ減シ輕懲役ニ處ス可キモノニ該リ第三ノ處爲ハ刑法第百二十五條第一項ニ依リ同法第百二十一條第二項ノ刑ニ一等ヲ減シ本刑重禁獄ニ該ル而シテ處犯原諒ス可キ情狀アルヲ以テ同法第八十九條第九十條ニ照シ本刑ニ二等ヲ輕減シ同法第六十九條ニ依リ二年以上五年以下ノ範圍内ニ於テ輕禁錮三年ニ處ス可キモノニ該ル右三罪俱發スルヲ以テ刑法第百條ニ依リ一ノ重キ無期徒刑ニ處ス可キモノナ

リトス

因テ明治十四年第八十一號布告ニ依リ新舊ノ法ヲ比照スルニ新舊共ニ相等キヲ以テ即チ新法ニ從ヒ無期徒刑ニ處スルモノ也

明治十七年三月七日秋田輕罪裁判所ニ於テ檢事補上倉繁藏立會ノ上宣告ス

判事　芹澤政溫
判事補　荻野錬二郎
判事補　長谷川勝太郎
書記　加藤清次郎

右正本ニ依リ謄寫スル者也

明治十七年三月十日

書記　弓削熊吉

裁判言渡書

秋田縣羽後國平鹿郡横手前郷村八番地平民
川越庫吉
當四十四年

其方儀柴田淺五郎カ教唆ニ從ヒ明治十四年五月十八日夜舘友藏柏木第六等ト共ニ右兇器ヲ携帶シ秋田縣羽後國平鹿郡醍醐村藤原多左衞門方ヘ押入リ財物ヲ强取セントスル際多左衞門ニ於テ之ヲ抗拒セントスル勢アルヨリ同人ヲ刄傷シ以テ之ヲ死ニ致シ財ヲ得スシテ立去リタルモノニシテ其證憑ハ秋田縣横手警察署ニ於テ爲シタル自供秋田縣巡査鷹觜德治カ作リタル檢證調書共犯舘友藏柏木第六カ横手警察署ニ於テ爲シタル陳述ヲ以テ充分ナリトス

又其方ハ明治十四年中柴田淺五郎カ政府ヲ顚覆セントスルノ企ニ同意シ恒ニ淺五郎ノ股肱トナリテ樞要ノ謀議ニ與リ其豫備ヲナシタルモノナリ其證憑ハ機密ノ通信探訪ヲ爲ス爲メ仙臺地方ニ赴キタル事跡等ニ徵シ充分ナリトス

以上ノ所爲ハ刑法實施以前ニ在ルヲ以テ刑法第三條ニ照スニ舊法ニ在テハ第一ノ所爲ハ明治十年第廿五號公布强盜律改正條款ニ照シ斬罪ニ處ス可キモノニ該リ處犯原諒ス可キ情狀アルヲ以テ明治七年第百三十四號公布ニ從ヒ本罪ニ一等ヲ輕減シ懲役終身ニ處ス可キモノニ該ル第二國事ニ關スル罪ハ禁錮三年ニ該ル右新律綱領二罪俱發以重論條ニ照シ一ノ重キ懲役終身ノ刑ニ處ス可キモノナリトス又新法ニ在テハ第一ノ處爲ハ刑法第三百八十條死刑ニ該レリト雖トモ處犯原諒スヘキ情狀アルヲ以テ同法第八十九條第九十條ニ依リ本刑ニ一等ヲ減シ無期徒刑ニ處ス可キモノニ該リ第二ノ所爲ハ刑法第百二十五條第一項ニ依リ同法第百二十一條第二項ノ刑ニ一等ヲ減シ本刑重禁獄ニ該ル而テ所犯原諒ス可キ情狀アルヲ以テ同法第八十九條第九十條ニ依リ二等ヲ輕減シ同法第六十九條ニ依リ二年以上五年以下ノ

範圍内ニ於テ輕禁錮三年ニ處ス可キモノニ該ル右二罪俱發スルヲ以テ刑法第百條ニ依リ一ノ重キ無期徒刑ニ處ス可キモノナリトス

因テ明治十四年第八十一號布告ニ依リ新舊ノ法ヲ比照スルニ新舊共々相等キヲ以テ即チ新法ニ從ヒ無期徒刑ニ處スルモノ也

明治十七年三月七日秋田輕罪裁判所ニ於テ檢事補上倉繁藏立會宣言ス

判事　芹澤政溫
判事補　荻野錬二郎
判事補　長谷川勝太郎
書記　加藤清次郎

右正本ニ依リ謄寫スルモノ也

明治十七年三月十日

書記　弓削熊吉

裁判言渡書

秋田縣羽後國平鹿郡醍醐村百十七番地平民農　柏木第六　當三十三年

其方儀柴田淺五郎カ教唆ニ從ヒ明治十四年五月十八日夜舘友藏川越庫吉等ト共ニ各兇器ヲ携帶シ秋田縣羽後國平鹿郡醍醐村藤原多左衞門方ヘ押入リ其財物ヲ强取セントスル際多左衞門ニ於テ之ヲ抗拒セントスル勢アルヨリ同人ヲ双傷シ以テ之ヲ死ニ致シ財ヲ得ス立去リタルモノニシテ其證憑ハ秋田縣横手警察署ニ於テ爲シタル自供秋田縣巡査鷹觜德治カ作リタル檢證調書共犯舘友藏川越庫吉カ横手警察署ニ於テ爲シタル陳述ヲ以テ充分ナリトス又其方ハ明治十四年中柴田淺五郎カ政府ヲ顚覆セントスルノ企圖ニ附加シタルモノニシテ右ハ秋田縣横手警察署ニ於テナシタル陳述ヲ以テ明確ナリトス

以上ノ所爲ハ刑法實施以前ニ在ルヲ以テ刑法第三條ニ照スニ第一ノ所爲ハ明治十年第二十五號公布强盜律改正條款ニ照シ斬罪ニ處スヘキモノニ該リ所犯原諒スヘキ情狀アルヲ以テ明治七年第百三十四號公布ニ依リ本罪ニ一等ヲ輕減シ懲役終身ニ處スヘキモノニ該ル第二國事ニ關スルノ罪ハ禁獄二年ニ處スヘキモノニ該ル右新律綱領二罪俱發以重論條ニ照シ一ノ重キ懲役終身ニ處スヘキモノナリトス又新法ニ在テハ第一ノ處爲ハ刑法第三百八十條死刑ニ該レリト雖モ所犯原諒スヘキ情狀アルニ依リ同法第八十九條第九十條ニ依リ本刑ニ一等ヲ減シ無期徒刑ニ處スヘキモノニ該リ第二ノ所爲ハ刑法第百廿五條第一項ニ依リ第百廿一條第四項ノ刑ニ一等ヲ減シ一年六月以上三年九月以下ノ輕禁錮仍ホ所犯原諒スヘキ情狀アルヲ以テ同法第八十九條第九十條ニ從ヒ本刑ニ二等ヲ減シ九月以上一年十月十五日以下ノ範圍内ニ於テ輕禁錮一年三月ニ處スヘキモノナリ右二罪俱發スル

ヲ以テ刑法第百條ニ依リ一ノ重キ無期徒刑ニ處スヘキモノナリトス
因テ明治十四年第八十一號布告ニ依リ新舊ノ法ヲ比照スルニ二法共ニ等キヲ以テ卽チ新法ニ從ヒ無期徒刑ニ處スルモノ也
明治十七年三月七日檢事補上倉繁藏立會ノ上宣告ス

秋田輕罪裁判所

判事　芹澤政溫
判事補　荻野錬二郎
判事補　長谷川勝太郎
書記　加藤清次郎

右正本ニ依リ謄寫スル者也

明治十七年三月十日

書記　弓削熊吉